

コミュニケーション能力の育成

身体を使って伝えよう

大口西小

大口西小学校(岩田和敬校長)で12月5日、文化庁の「次代を担う子ども」の文化芸術体験事業として「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験」が行われました。

講師を務めたのは、ドラマケーション普及センター(尾田和夫センター長) 東京都。ドラマケーションは「ドラマ」と「コミュニケーション」の合成語で、「いつでもどこでも・誰でも・楽しく」をモットーに、遊びを取り入れ、身体を使って心で感じることで自分や相手に気付き、周りや社会との関係を肯定的に受け入れることができるよう工夫されたプログラムです。

2回目となった5年生の授業では、3人がそれぞれの手の平を付けて離さないように動くことや、20人ほどで手をつなぎ、つないだ手の下をくぐったりまたいだりしてねじれた状態を元に戻す「人間の知恵の輪」。自分の思った言葉を身体で表現して友達に伝えるなど、身体を使ってコミュニケーション

「体で表現するのは面白かった」「人間知恵の輪は、ぐちゃぐちゃになっても元に戻れて不思議な感じがした」と、五感を刺激しながらのドラマケーションで、心の緊張を解きほぐしていました。

「た」や「し」を言葉の頭に、自分の思う言葉の頭で表現する体験は、最初は戸惑い気味だった子どもたちも、身を乗り出して理解しようと



身体を使ってコミュニケーションを取る方法を学んだ大口西小児童

外国人留学生が和食体験 江南高校

愛知県立江南高校(森崎忠彦校長)に12月10日、アジア大洋州地域から11人の短期留学生と引率教師が来校。授業を参観し調理実習、体育の授業体験、弓道部、箏曲部に体験参加して生徒らと交流しました。公益財団法人AFS日本協会主管、外務省の青少年交流(キズナ強化プロジェクト)

として来日した留学生らは、東北地方を訪れて被災地の現状や被災者と交流し、その後、ホームステイをしながら同校で日本文化や歴史に触れる体験や交流をしました。同校PTA役員らの協力で行った調理実習では、白玉粉を丸めてゆでた白玉団子、豆腐入りのお吸い物、いなり寿司、刺し

身や卵焼き、キュウリ、納豆などを具にした手巻き寿司を作り、ホストファミリーの生徒らと一緒に会食しました。オーストラリア、インド、マレーシア、ニュージーランド、フィリピン、東ティモール、ベトナムと出身国はさまざま、白玉団子はおい

「白玉団子はおいしい」「刺し身は初めて。食べてみます」と、片言の日本語と英語でコミュニケーションを取りながらの和やかな和食体験。前日から降った雪に「雪を見るのは初めて」と言う留学生が多く、雪景色も歓迎した国際交流活動となりました。



日本食の調理に挑戦する留学生たち



片言の日本語と英語で楽しんだ会食の様子

信義さん、愛知県文連美術展などで入賞し昨年、

賞状の表彰状

